

露地なす（特に水なす）の褐紋病に注意！

1 発生と今後の状況

- (1) 7月の巡回調査では、露地なすにおける褐紋病の発病株率が、平年に比べて高かった（表1）。
(2) 8月上旬の降水量が平年より多く、下旬も引き続き多いと予想されているため、本病の発生が急増する恐れがある。

表1 露地なすの巡回調査における褐紋病の発病株率（調査地点：貝塚市、河南町）

	6月 月上旬	6月 月下旬	7月 月上旬	7月 下旬
令和3年度	0.0%	0.0%	3.0%	13.0%
平年値 (平成27年度～令和2年度)	1.3%	0.0%	0.5%	3.0%

2 なすの褐紋病について

- (1) 発病すると葉や茎に褐色の病斑ができる（図1）。果実では褐色で円形の斑点ができ、進展すると腐敗を生じる（図2）。さらに病状が進むと柄子殻という小さな黒点を形成する。
(2) 特に露地の水なすで発生しやすい。梅雨時期から発生し、盛夏過ぎから被害が増える傾向にある。病原菌は被害植物とともに土壤中に残り、次作の伝染源となる。



図1 葉の病斑



図2 果実の病斑

(大阪府植物防疫協会提供)

3 防除方法・注意事項

- (1) ほ場内の排水や風通しを良くし、湿度を上げない。
(2) 発生を認めたら直ちに発病部位を取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
(3) 発生を認めたら表2の薬剤を散布する。
(4) 今年度被害が発生したほ場では、来年度は連作を避ける。
(5) 収穫後の種取りは、褐紋病の発生していないほ場や株から行う。

表2 なす褐紋病の登録農薬

薬剤名	系統 (FRAC)	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
ベンレート水和剤	ベンズイミダゾール (1)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
スクレアフロアブル	ストロピルリン (11)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内

●Web版大阪府病害虫防除指針 (<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)●農林水産省農薬登録情報提供システム (<https://pesticide.maff.go.jp/>)